

黒服

衆議院解散直前の11月18日、記者会見において安倍首相は「デフレから脱却し、経済を成長させ、国民生活を豊かにするためには、たとえ困難な道であろうとも、この道しかありません。景気回復、この道しかないのです。国民の皆様の御理解をいただき、私はしっかりとこの道を前に進んでいく決意であります」などと述べていた。そして、12月14日の投票日を迎え、戦後最低の投票率の中、小選挙区では自民党が有効投票総数の48%を獲得、有権者10人のうち2~3人が「この道しかない」に一票を投じた形となった。

しかし、昔から「この道しかない」などと言われてついて行った人で良い目に合えた人は少ない。戦争でもそうだが、地震や火災といった災害時、また、交通渋滞時などでもそう。本当に「この道」しかないのであれば、道を進める間はよいが、進めなくなったら逃げ場のない最悪の道と化してしまう。年末年始の帰省ラッシュでも、いつ動くかわからない超渋滞の高速道路にウンザリされているのではと思うのだが…どうであろうか。だからこそ、人間は「逃げ道」という別の道も数多く作り、選択肢を増やし、縦横無尽に道を行

らせてきたのであろう。多文化、異業種交流等々も、いくつもの道を重層的に走らせ、多様性を確保するという智慧の一つであったと思うのだが。

さて、そんなことを考えながら通勤電車に揺られていると、ふと、あることに気がついた。それは、目の前がまさに真っ暗、いや、「真っ黒！」であったということだ。毎日のことなのであまり気にもしていなかったのだが、目の前にいる人の洋服がみんな黒いのだ。右側の人も、左側の人も、年配の人も、若い人も、男性も女性も、みんな真っ黒、黒一色！そして電車内を見回してみると黒い服でなかったのは筆者ただ一人だけであった。電車を降りて新宿駅のホームを見回して見ても、なんとほぼ全員が黒！1日の乗降者数が300万人を超える新宿駅の利用者のほとんどが真っ黒の装いだったのだ。正直、この単一色の光景に気がついてからは自分でも驚きを隠せなかった。

昔から洋服の色と景気には相関関係があると言われており、景気の悪いときは服の色が黒くなるという傾向が指摘されてきた。事実、バブル崩壊後の流行色は黒であり、世の中は黒服で溢れていたが、その時以上の黒服の大



杜 海楼

流行という感じで、そんなにも今は景気が悪いのかと改めて驚かされた次第であった。

また、黒服には、重厚、後退、拒絶、圧力、等々の深層があるとも日本では言われてきており、プラス面よりマイナス面が目立つとも言われてきた。一度戦争になれば、煌びやかな服の色は自粛となり、目立たない事が第一義とされ、色物など着ていようものなら殴り倒されるという史実もあった。そんなことを思い返しながらか、この黒服の主たちの何割かが「この道しかない」に投票したのか…と思うと妙な気分になった。

電車や駅の周辺をぐるりと見渡すと、煌びやかな広告が所狭しと並んでおり、赤、青、黄、緑、白と色鮮やかな色の服に身を纏ったタレント達が楽しげに写っていた。しかし、その側を歩く人の服装は、やはり真っ黒なのであった。広告の世界と現実とが全く噛み合っていないことは一目瞭然であった。こういった場合、どこかの首相の言葉を借りれば、現実との乖離が激しいので、広告を現実に合わせて真っ黒にするということになると思うのだがどうであろうか。

こうして、日本はブラックリストにブラック企業と相まって、ますますブラック化して

いくかのようだ。正月早々、恐縮とは思うのだが、しかし、一つの傾向としては受け止めておく必要があると思っている。

ところで、黒以外の服装は本当に姿を潜めてしまった？のであろうか…。一時の金髪、茶髪もすっかり影を潜め、ガングロ少女も街で全く見かけなくなってしまったのであろうか…。そう思って周辺を改めて見渡してみたところ、少しだけ場所を変えたところに賑わいの場は存在していた。そこは、一つはマラソン大会、一つはアニメのコスプレ大会であった。ご存じの通り、マラソン大会は日本国内で大ブーム、アニメは世界を圧巻している日本の一大産業だ。そのどちらとも多様な色彩の服装で溢れていた。活力のあるところでは、色も多彩、服も多彩、道も多彩ということのようだ。

この正月の書き初め、墨ではなく、一つ煌びやかな塗り絵でどうだろうか。

